

本検討会議における主な御意見・検討事項等について

外国人児童生徒を取り巻く環境

【外国人児童生徒等の状況】

- 日本で生まれ、日本国籍を持っていても、日本語教育が必要という児童生徒も増えている。外国人児童生徒のみならず、そのような日本国籍の児童生徒への対応も必要。
- 来日直後でまだ十分に文字の読み書きのできない児童生徒の読みの困難度は、日本人の読みが困難な児童生徒と同等若しくはそれ以上である。
- 特別支援教育が必要で、日本語教育が必要という児童生徒も少なくない。そういった二重の負担を抱える児童生徒への支援も検討が必要。

【外国人児童生徒等に求められる支援】

- 外国人児童生徒等に効果的な支援は、その個人の状況によって大きく異なる。
例えば、海外でしっかりと教育を受けており、日本語は分からないが、母国語で考えれば問題なく学習できる場合は、母国語の教材や、母国語の教科用語の対訳集等を活用できるのではないかな。

一方で、海外では殆ど学校に通えない状態であった場合や、日本で生まれて母国語も日本語も十分に習得できていない場合等は、有効な支援は違ってくるのではないかな。

- 文言を整え、「外国人児童生徒等の教科書使用等に当たり必要な配慮・課題」に移動。○ 外国人児童生徒等には、単純に日本語教育を行えば良いというのではなく、学校になじめるようにする必要もある。

ICTを活用した教材等の現状等

- デジタル教科書は、障害のある子供等向けの機能が充実し、教科用特定図書等に近付いてきている。
- 外国人児童生徒等を指導する教員に、音声教材の存在が知られていないのではないかな。
- 海外から来日した障害のある外国人児童生徒等の場合、母語の教科書を音声教材化したデータがオンラインで入手できる場合がある。そのような教材を活用することも考えられるのではないかな。
- 読みに困難を抱える児童生徒には、分ち書き表記を可能にすることが有効だが、教科用特定図書等を作成するボランティア団体等の作業を効率化するため、教科書発行者と連携できないかな。

ICTを活用した教材等の活用により期待される効果

- ICTを活用した教材の使用は、発音や音・文字合わせに困難がある外国人児童生徒等の言

語習得において大変有効であると考えられる

毎日継続して学習していくことが重要であり、ICT 機器を使うことで、誰にも気兼ねすることなく、自分のペースで何度も反復して音声を聞けることは、効果が高いと考えられる。

- ICTを活用した教材を使用することで、指導者側に余裕が生まれ、丁寧な指導が可能となったり、教科書の字が読めるようになった外国人児童生徒等自身の学ぶ意欲が高まったりすることで、内容理解にもつながると考えられる。

- 現場で行われている外国人児童生徒等に対する支援の中には、教科用特定図書等の機能を活用することでカバーできるものもあると考えられる。

例えば、文字の認識とその文字を音声化していくというプロセスにおける困難については、読み上げ音声を聞きながら、文字との対応関係を学ぶことが有効と考えられる。

一方で、語彙の意味のとらえ方や使う場面に関する知識、技能や、文章の構造、文法面の知識、理解を養うには、分ち書き等の機能を活用しつつ、教材と併せてしっかりと指導を行う必要があると考えられる。

外国人児童生徒等の教科書使用等に当たり必要な配慮・課題

- 外国人児童生徒等の日本語指導において音声教材やデジタル教科書を活用できるようにするに当たり、以下の点についても併せて配慮・検討することが求められる。
 - ・ 音と文字のマッチングによってその対応関係を学ばせるのみならず、漢字や単語の意味を理解し、それを運用する力を高めることが重要であること。
 - ・ 認知的な側面で発達途中にある外国人児童生徒等には、教科等の学習を支える思考力の土台として日本語の力を培う必要があること。
 - ・ 母語と日本語の間における文法の違いや、語の意味範囲の違い、さらには、背景にある文化や社会的状況の違いを考慮すること。
- 外国人児童生徒等が既存の音声教材等を活用できるようにするのみではなく、やさしい日本語にしたり、図像、図や絵を活用した教材等を併せて活用したりすることも重要。
- ICTを活用した教材を使用する等の配慮について、生徒を受け入れる学校や周囲の児童生徒からの理解を得られる方策と併せて進めることが重要。
- ICT機器の整備や指導に使用する教員への情報提供・サポートが必要。
- 学校の教室、放課後の指導のみならず、家庭での自習にも使用できることが望まれる。